

## 令和2年度第2回亀岡市総合戦略推進会議 議事要旨録

日 時：令和2年12月28日（月） 10時00分～11時00分

場 所：亀岡市役所 202・203会議室

出席者：鈴木康久委員長、川勝啓史副委員長、青山公三委員、浦本博臣委員、楠善夫委員、柴田晃正委員、多胡麻衣委員、前川二郎委員

欠席者：並河景子委員、三宅基子委員

議 題：1 開 会

2 議 事

(1) 亀岡市人口ビジョン（改定案）について

(2) 第2期亀岡市総合戦略（案）について

(3) 今後のスケジュールについて

(4) その他

3 閉 会

### 1 開会

### 2 議事

(1) 亀岡市人口ビジョン（改定案）

(2) 第2期亀岡市総合戦略（案）

(3) 今後のスケジュール について説明（事務局）

### 委員長

- ・意見や質問があればお願いします。

### A 委員

- ・各基本目標に関連するSDGsの基準はあるか。また、子育ては母親、女性がするものというバイアスを払拭するため、基本目標1に関連するSDGsとして「5. ジェンダー平等を実現しよう」を追加してはどうか。

### 事務局

- ・基準としては、第5次亀岡市総合計画における考え方と合わせている。意見のあった項目については、検討する。

### B 委員

- ・総合戦略24頁について、京都先端科学大学と連携して実施する内容を具体的に記載してはどうか。

## 事務局

- ・京都先端科学大学と連携していくということは明記している。具体的な取組内容を記載すると内容が限定されてしまうため、総合戦略には掲載しない方向で考えている。

## C 委員

- ・1点目として、総合戦略4頁の数値目標「移住者数」について、定義が分かるように記載してはどうか。
- ・2点目は、学力は移住を検討する場合に大きな要素となるため、総合戦略5頁の指標「京都府学力診断テスト結果」について、府平均を目指すのではなく、より高い目標を設定してはどうか。
- ・3点目は、総合戦略19頁の指標「定員に対する消防団員の確保比率」について、定員を下げることで目標を達成するようなことのないようお願いする。また、逃げ遅れゼロを目指すということに記載してはどうか。
- ・4点目は、総合戦略21頁について、コロナ禍で自転車の交通量が増えているため、自転車に関する交通安全の施策を記載してはどうか。また、「交通事故死傷者数」「刑法犯認知件数」について、目標値の設定根拠は何か。

## 事務局

- ・1点目については、総合計画の方でも分かりやすく記載すべきという意見があったため、分かりやすい記載を検討する。
- ・2点目については、教育振興基本計画と整合をとっている。
- ・3点目について、定員を下げることで目標値を達成することのないよう担当課へ伝えておく。
- ・4点目について、指標の設定根拠は「交通事故死傷者数」は10年間で30%減を目指すため、5年間で15%超削減を目指す。「刑法犯認知件数」は10年間で1割減とし、5年間で0.5割減を目指す。

## 事務局

- ・逃げ遅れゼロに関する施策は、「③避難行動要支援者の支援体制整備」に含んでいる。
- ・自転車の交通安全については、「安全教育の推進」や「交通安全の学習・啓発機会の充実」に含んでいる。セーフコミュニティの一環として取り組んでいるが、自転車に特化した施策は少ないため、今後自転車に関する施策が具体的になった際は、記載変更を検討する。

## 委員長

- ・指標「京都府学力診断テスト結果」について、目標は高い方が良いので、意見があったことを担当課に伝えてほしい。

## C 委員

- ・まずは平均を目指し、それを達成してからより高い結果を目指すという考え方かと思う。ただし、平均で満足せず、より高い目標を目指してほしい。

#### D 委員

- ・施策を実施するにあたり、総合戦略の内容をどのように市民に周知するのか。また、PDCA サイクルが重要であるが、どのように見直していくのか。

#### 事務局

- ・主に総合計画を市民に広報し、総合戦略については市ホームページで公開する。
- ・PDCA サイクルについては、当会議において総合戦略に基づく地方創生事業の検証を毎年実施することで、総合戦略の見直しについても検討する。

#### 委員長

- ・総合戦略には市全体で取り組む施策を記載している。その中でも地方創生交付金に関わる事業については、特に検証が必要となるということである。

#### B 委員

- ・基本目標 1 の数値目標について、「移住者数」も良いが、それ以外に考えられないか。人口ビジョン 5 頁の「男女別・年齢別純移動数」のグラフについて、京都府北部の京丹後市や宮津市では、10 歳台後半～20 歳台前半で転出超過であっても、20 歳台後半にかけて転入超過になっている。すぐに難しければ次回策定時でも良いので、帰ってきたいまちに相当するような指標を設定した方が良い。施策によって、若い人たちが帰ってくるための条件をどう作るかが重要である。

#### 事務局

- ・京都府北部との比較として福知山市と亀岡市を比較した場合、要因が複数ある。一番は都市圏の違いで、亀岡市は大都市圏に属するベッドタウンであるが、北部は福知山市を中核とする都市圏であり、製造業などが多い。また、福知山市の方が 20 歳台の既婚率が高く、早く結婚するため子どもの数が多い他、生活費が安いことから子どもの教育費に費用を割けるということが考えられる。今後分析を深めて、次回の策定時には何らかの目標を設定できればと思っている。

#### 委員長

- ・委員の意見は問題の本質であり、移住政策に関しては農山村地域だけを対象とするのではなく、本質に対して取り組む必要がある。例えばロンドンの周辺部が皆の憧れであるように、亀岡もそうなれる可能性がある。

#### 事務局

- ・ 亀岡市の強みは子育て環境であり、出産を機に亀岡に移住してもらえるように、子育て支援を行っていく。

#### E 委員

- ・ 亀岡市長、南丹市副市長、京丹波町長にそれぞれお会いした際に、大河ドラマで園部が取り上げられたから盛り上がっているかと思うと、南丹市、京丹波町の会議室では大河ドラマ関係のPRがされていないことに驚いた。観光に関して近隣市町との連携の取組は考えているか。

#### 事務局

- ・ 2市1町での連携や森の京都DMO、大丹波連携観光推進協議会といった枠組みで、広域連携の取組を実施している。各市町村で、広報媒体や方法に違いはある。

#### F 委員

- ・ 森の京都や、宇治市、舞鶴市との連携があり、各市町の観光協会連携をとっている。商工会議所と観光協会の共同で先進地視察も行っており、今年度は2月に舞鶴市を視察して連携を深める予定である。舞鶴港では、コロナウイルスの影響でクルーズ船の入港がキャンセルになっており、復権に向けて協力していきたいと考えている。

#### G 副委員長

- ・ 亀岡の強みとして、通勤に便利ということがあるので、公共交通網を強化することが重要だと思う。

#### 委員長

- ・ 京都市から15分で来られるなど、PRした方がよい。また、給水スポットを作っていくと聞いたので、それも記載してほしい。人口を増加させるためには、選ばれるまちになるように、どの世代に対して施策を打っていくのか分かるようになるとよい

### 3 閉会

以上